

●渡辺棋王が9連覇 将棋の渡辺明棋王(36)に糸谷哲郎八段(32)が挑戦していた第46期棋王戦(共同通信社主催)5番勝負の第4局は17日、東京都渋谷区の東郷神社で指され、午後5時8分、98手で後手の渡辺棋王が勝ち、3勝1敗で9連覇を達成した。タイトル獲得は谷川浩司九段(58)を抜き、単独4位の通算28期となった。

渡辺棋王は14日に王将を防衛したばかりで、2020年度は名人と合わせて三冠で終えた。タイトル戦9連覇は、04～12年の竜王戦と並び自己最多。

●竹下通り車暴走で懲役18年 東京都渋谷区原宿・竹下通りで2019年元日、通行人を無差別に殺害しようと軽乗用車で暴走し、男性8人に重軽傷を負わせたとして、殺人未遂などの罪に問われた無職日下部和博被告(23)の裁判員裁判で、東京地裁は17日、「不特定多数の人を死亡させる恐れが高く、人命軽視が甚だしい」とし、懲役18年(求刑懲役20年)の判決を言い渡した。

弁護側は「統合失調症の症状が影響した」として無罪を主張したが、永淵健一裁判長は判決理由で「大量殺人という目的に向け、現実に合わせて犯行の方法や場所を柔軟に変更し、合理的な行動をしている」と完全責任能力を認めた。

女子学生
名誉毀損訴訟
二名

デマ、差別の被害訴え

口頭弁論で辛淑玉さん

沖縄の基地反対運動をデマでおとしめる番組によって名誉を毀損されたとして、在日コリアン3世の辛淑玉さんが番組制作会社と司会者に損害賠償を求めた訴訟の第9回口頭弁論が17日、東京地裁(大嶋洋志裁判長)で開かれ、辛さんは番組でおおられた差別の被害の深刻さを訴えた。

訴状などによると、番組は2017年1月、東京MXテレビで放送された情報番組「ニュース女子」。米軍ヘリコプター離着陸帯建設に反対する市民を「テロリスト」に例え、直接取材もせず辛さんがその「黒幕」であるかのように放送した。

本人尋問で辛さんは、市民団体の代表として呼び掛けしたのは「現地レポートをしてみたら市民特派員で費用もカンパで集めた」とデマを否定。司会を務めた当時東京新聞・中日新聞論説

メディアの責任問う責任

視点

法廷では反訴している長谷川幸洋氏の本人尋問も行われた。浮き彫りになったのは、メディアが引き起こした差別の被害の重大さに対する差別をあり、広める側の圧倒的な「軽さ」という不条理だ。「ネットリンチを楽しむ

副主幹の長谷川幸洋氏については「プロのジャーナリストとして、デマを流した番組をつつがなく進出した責任は重い」と主張した。

番組は化粧品販売大手DHCの子会社のDHCテレビの制作。長谷川氏は番組を巡って辛さんが開いた記者会見で名誉を傷つけたと、反訴している。

(石橋 学、視点も)

たい人の格好の標的としてつるされた」「デマに踊らされた大衆の暴走が怖かった」「家族に嫌がらせが及んだら死のうと思つた」辛淑玉さんをよこしまな存在として名指した番組が招いた攻撃は一個人の生存の危機を脅かすだけにとどまらなかった。2年間ドイ

ツに渡ったのも「自分にひどいことが起きたら、それが在日全体への攻撃の引き金になってしまう」。ヘイト番組が地上波で放送され「一線を越えた」と感じた衝撃は、日本を離れたものの兄や母が標的となるに至り、「甘かった」と思い知らされることになった。

何度も声を詰まらせる傍らで長谷川氏はしかし、眼鏡を外してうつむいたまま目をつぶり、スマホをいじっているのだった。DHCテレビの代理人弁護士も「『母国』の在韓米軍基地に反対か『物理的に殺されると思つたのか』と、日本に生まれ育つ在日コリアンへの基本的認識も、虐殺された歴史を持つ少数者への理解も欠く尋問を重ねるありさまだった。無関心と見下しのなせるわざだった。

閉廷後、私は「深刻な差別を生んだ番組に司会として関わった責任をどう考えるのか」と問い掛けたが、長谷川氏は無言のまま早足でタクシーに乗り込んだ。確かにこの国は差別自体を裁く法を欠いたままだ。であればなおさら、メディアの責任をメディアが問うていかなければならない。